

博物館施設に必要な機能等と構成案について

2026.07. 30

目次

- 1 これまでの検討会の到達点
- 2 本市の博物館施設を検討する上での論点
- 3 関係者ヒアリングから見えた方向性
- 4 本市に必要な機能の考え方
- 5 本市における博物館施設の構成案
- 6 本市における収蔵庫の見直しの方向性
- 7 今後の検討の方向性

1 これまでの検討会の到達点

第1回・第2回検討会での議論を踏まえ、本市における博物館施設の現状と課題を整理した。

現状認識

- ・博物館施設や収蔵庫が市内に分散し、老朽化も進行していることから、資料の保存・管理や展示・調査研究に課題がある。
- ・広島歴史・文化を総合的に学び、各施設をつなぐ中核的な博物館機能が不足している。
- ・昭和58年策定の「広島市博物館基本構想」について、社会経済情勢の変化等を踏まえた再整理が必要である。

共有された認識

博物館

- ・郷土の歴史・文化への理解と愛着を育む**教育普及機能の充実**が必要である。
- ・分散する学芸・展示・収蔵機能をつなぐ**中核機能の確保**が必要である。
- ・**デジタル活用を含めた調査研究・保存・情報発信機能の強化**が必要である。
- ・学びとにぎわいを創出する**交流機能の充実**が必要である。

収蔵庫

- ・収蔵環境の改善と収蔵機能の集約化を進める必要がある。
- ・収集・保存方針、資料評価及び除籍制度の整備が必要である。
- ・資料のデジタル化や公開による保存と活用を両立させる必要がある。

2 本市の博物館施設を検討する上での論点

論点
1

収集・保管について

論点
2

調査研究について

論点
3

展示について

論点
4

教育普及について

論点
1

収集・保管について

関係者ヒアリング
から見た傾向

分析

運営者

- 収蔵スペースの不足により寄贈を受けられない場合がある。
 - 資料の価値判断が十分に行えていないものがある。
 - 除籍は必要である一方、慎重な判断が求められている。
-
- 収蔵スペースや人員に制約がある中、資料の収集・評価・保存・活用の考え方が必ずしも統一されておらず、**計画的な資料管理の仕組みづくりが求められる。**

検討の方向性

収集・保存方針の策定・資料評価・除籍制度の整備を検討する必要がある。

論点 2

調査研究について

関係者ヒアリング
から見た傾向

分析

検討の方向性

運営者

- 学芸員相互の連携は日常的に行われており、企画展等においても協力体制が構築されている。
- 一方で、人材や資料が施設ごとに分散しており、効率的な運営や研究活動に制約があるとの意見があった。
- **施設間の連携は図られているものの、人材や資料が分散していることから、調査研究機能のさらなる高度化や効率化には限界がある。**

学芸員や資料の集約化により調査研究機能を強化する必要がある。

展示について

関係者ヒアリング から見た傾向

分析

検討の方向性

運営者

- 本市の歴史を体系的に学べる展示を求める意見がある。
- 展示スペースの制約により、所蔵資料を十分に公開できていない。

利用者

- 学校利用においては、通史展示だけではなく、学習目的に応じた展示内容が求められている。
- 資料を見るだけでなく、体験しながら学べる展示が求められている。
- 誰もが利用しやすい環境づくりが重要である。

- 展示には**広島**の歴史を体系的に学べる機能に加え、**多様な人が集い、学びや交流につながる場としての役割**も求められている。

**体験型展示やデジタル活用により、多様な歴史・テーマを
わかりやすく伝える展示機能の充実が必要である。**

論点
4

教育普及について

関係者ヒアリング から見た傾向

分析

検討の方向性

運営者

- 校外学習の受入れを通じて、こどもたちが郷土の歴史・文化に触れる機会を提供している。
- 本市の歴史を体系的に学べる施設は、郷土への理解や関心を深めることにつながるとの意見があった。

利用者

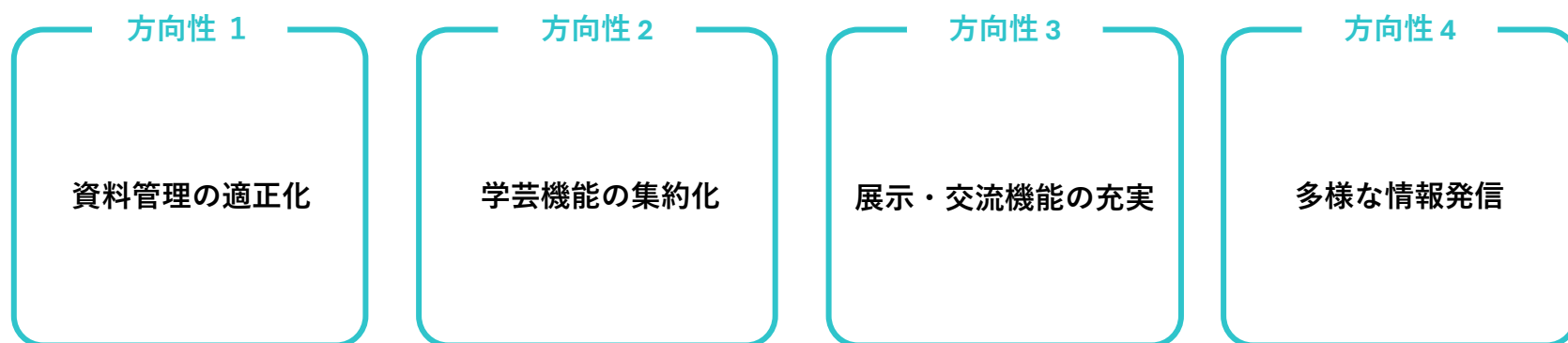
- 校外学習では、資料を見るだけでなく、体験を通じた学びが重視されている。
 - デジタルコンテンツや出前授業など、来館以外の活用ニーズがある。
 - 学校利用においては、利用しやすさや他施設との回遊性も重要である。
-
- 博物館には来館による体験型学習の充実に加え、デジタル活用等により、来館を伴わない学習機会の提供も求められている。

体験型学習とデジタル活用による教育普及機能の充実が必要である。

論点整理のまとめ

	論点		検討の方向性
論点 1	「 収集・保管について 」	▶	資料管理の適正化
論点 2	「 調査研究について 」	▶	学芸機能の集約化
論点 3	「 展示について 」	▶	展示・交流機能の充実
論点 4	「 教育普及について 」	▶	多様な情報発信

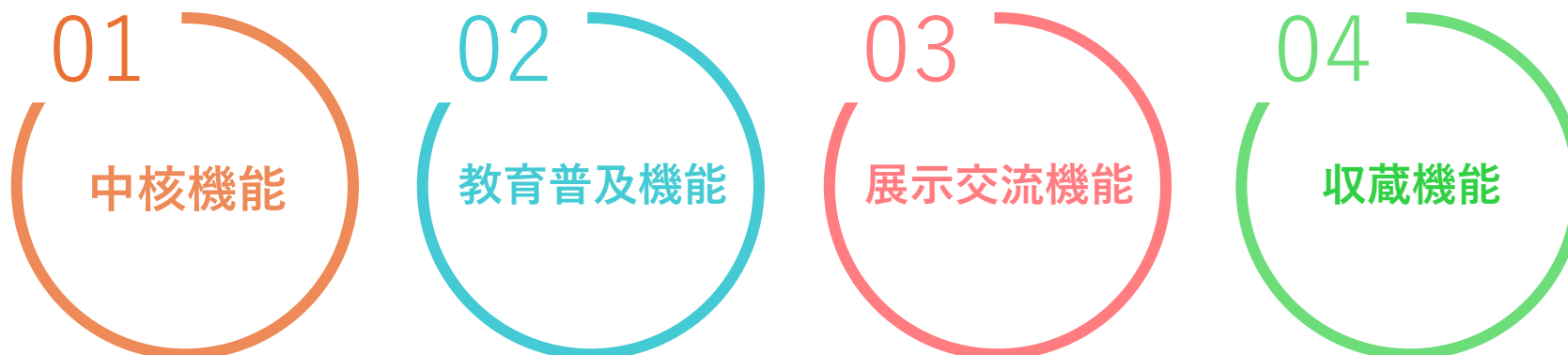
論点整理から見えてきた方向性



目指す方向性

分散する博物館機能を集約・最適化し、歴史・文化資源の保存・調査研究・活用を通じて、市民の郷土理解や地域への愛着を育む施設を目指す。

論点整理の結果、本市においては、次の4つの機能を確保する必要がある。



また、これらの機能を効果的かつ効率的に発揮する施設体系を検討する必要がある。

01

中核機能

必要な
機能

求められる機能の整理

- ・本市の歴史・文化を総合的に調査・研究する拠点
- ・本市の歴史を体系的に発信する拠点
- ・博物館資料や学芸員の連携・活用を推進する拠点
- ・広島広域都市圏における人文社会系博物館の連携拠点

期待される
役割

- ・調査研究機能の強化
- ・学芸員の専門性向上・人材育成
- ・博物館資料の保存・活用の推進
- ・広域的な博物館ネットワークの形成

機能を実現
できる方法

中核施設への機能集約と連携強化
(分散する学芸機能・資料の集約化)

02

教育普及機能

必要な
機能

求められる機能の整理

- ・本市の歴史・文化を学ぶ機会の提供
- ・校外学習や学校教育への対応
- ・来館・デジタル双方による情報発信
- ・多様な利用者に対応した学習機会の提供

期待される
役割

- ・本市の歴史・文化への理解促進
- ・地域への愛着や誇りの醸成
- ・歴史・文化への興味・関心の喚起
- ・博物館資料の活用促進

機能を実現
できる方法

体験型学習、デジタル活用、アウトリーチなど、
多様な手法による教育普及活動の展開

03

展示交流機能

必要な
機能

求められる機能の整理

- ・本市の歴史・文化を分かりやすく伝える展示機能
- ・体験型展示やデジタル活用による学習機会の提供
- ・多様な人が利用できるバリアフリーな施設
- ・団体利用や交流活動に対応したスペース
- ・観光振興にも資する歴史文化発信機能

期待される
役割

- ・本市の歴史・文化への理解促進
- ・多様な利用者の来館促進
- ・歴史・文化を通じた交流機会とにぎわいの創出
- ・文化観光の推進

機能を実現
できる方法

多様な利用者が交流できる展示・利用環境の整備

04

収蔵機能

必要な
機能

求められる機能の整理

- ・収集方針に基づく資料の収集
- ・適切な環境下での保存・管理
- ・資料の公開・活用を支える収蔵環境
- ・外部機関からの資料借用に対応した機能

期待される
役割

- ・歴史・文化資源の確実な継承
- ・資料の適切な保存・管理
- ・調査研究・展示活動の基盤形成
- ・貴重な資料の活用促進

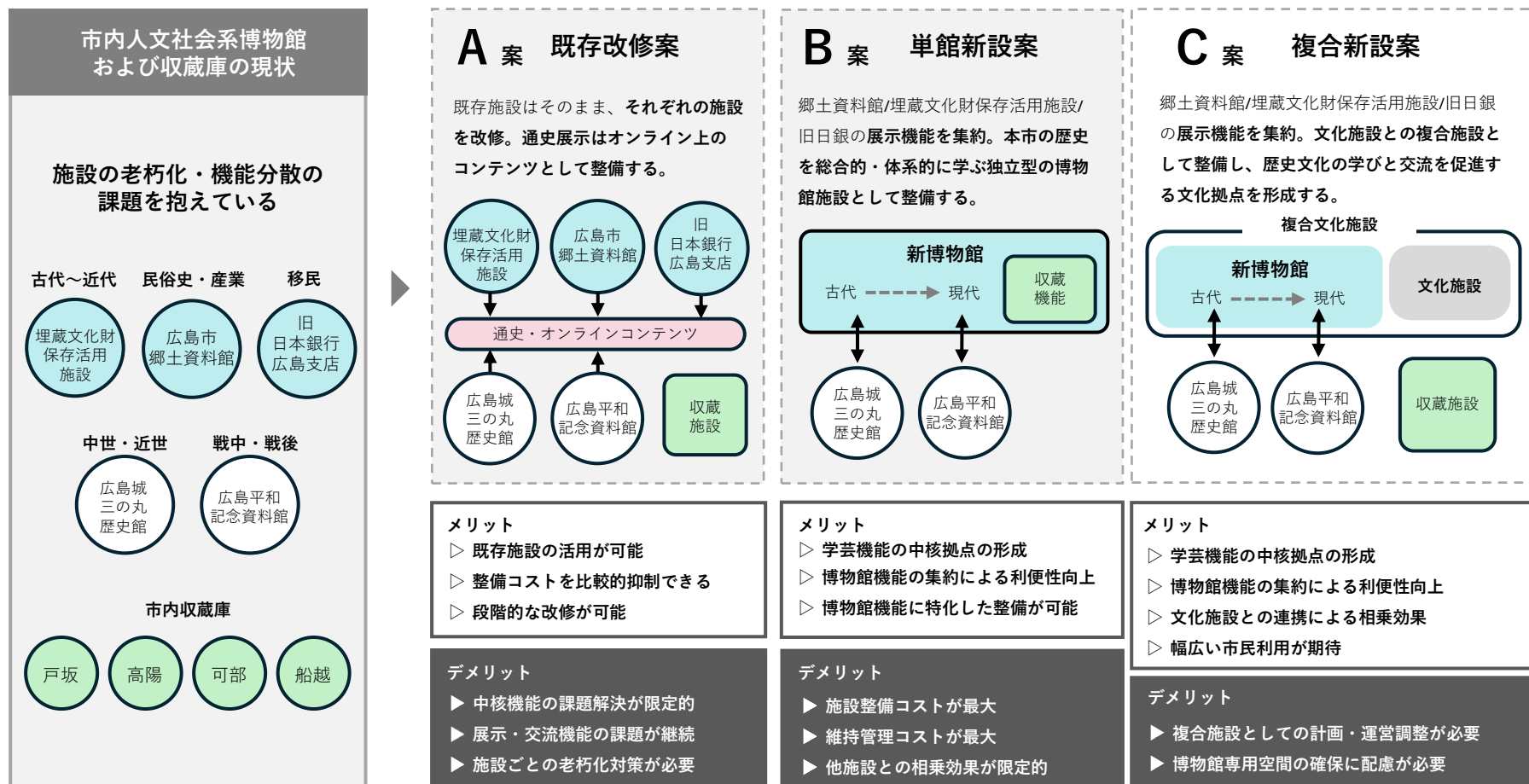
機能を実現
できる方法

収集・保存方針に基づく資料管理の適正化

5 本市における博物館施設の構成案

これまでの検討会での議論及び関係者ヒアリングの結果を踏まえ、本市の歴史・文化資源の保存、調査研究、展示公開及び情報発信機能の充実を図るため、博物館機能の在り方と施設構成の方向性について整理した。

広島市における博物館の構成モデルの例



※広島平和記念資料館及び広島城三の丸歴史館については、それぞれ平和・城郭史を専門的に扱う施設として、引き続き独自の役割を担う。

6 本市における収蔵庫の見直しの方向性

これまでの検討会での議論及び関係者ヒアリングの結果を踏まえ、資料管理の適正化を図るため、収蔵庫の見直しの方向性について整理した。



収蔵庫の見直しの方向性

本市が保有する資料について、**収集・保存方針の整理と資料評価を行い、適切な保存・活用を進める**ことで、将来的な収蔵環境の最適化を図る。



本市の博物館施設の検討の方向性

論点整理及び関係者ヒアリングを踏まえると、

資料管理の
適正化

学芸機能の
集約化

展示・交流
機能の充実

多様な情報
発信の推進

を基本として、本市に必要な博物館施設体系を検討していくことが適当である。

次回の検討内容

- ・ 博物館施設構成案の比較検討
- ・ 市民アンケート結果の報告
- ・ 立地条件の検討
- ・ 複合機能の整理
- ・ 在り方案（素案）の作成